

しぜん さいがい じ ざいたく ひなん げんそく そな
自然災害時、「在宅避難」を原則に備えるぼうさい とりく
マンション防災の取組み

つつじが丘北防災協議会

- 設立年 | 2012年12月
- 団体構成 | 2,900名
- 所在地 | 東京都昭島市つつじが丘2-4-16
北管理組合事務所内
- 連絡先 | TEL 042-548-1977
FAX 042-546-4698
E-mail kita-bk@tutuji.net
- 取組開始年月 | 2011年8月

在宅避難カードセット・防災マニュアル・
安否確認マグネットシート・防災カード

防災訓練は棟別に安否確認訓練を中心に実施

各棟の互近助ポストから在宅避難カードを
回収し棟別にまとめる防災の担い手の中学生と共に毎年実施し、
最後に訓練の感想を発表

■ 団体概要

昭和57年から入居を開始し43年が経過した、14棟11階建て1397世帯の団地型分譲マンションです。ピーク時に4,626人いた住民は、現在2,856人になり超高齢化地域になりました。阪神・淡路大震災の直後に自治会を立ち上げ、積極的に防災活動を推進。東日本大震災の翌年には管理組合と自治会で「つつじが丘北防災協議会」を設置し、地域防災力の向上を目指して毎月開催しています。さらに「防災隣組」を号棟ごとに結成。以来11年、「災害時死者ゼロ」を目指して、平時は地域の見守り、災害時は安否確認を主な取組として活動しています。

■ 背景

兵庫、福島、宮城、岩手等の被災地を訪問し現地から多くを学ぶとともに、防災講演会を通して「逃げる防災」から「命を守る防災」への取組に転換。全戸の安否確認訓練を毎年繰り返し実施するなど、最も大切な自助への啓発活動を推進。これらを広報等で更に周知しています。

■ 取組の内容

■在宅避難の備え ①「在宅避難カード」の作成とカードを使った訓練の実施 ②「避難行動要支援者」と「災害時「声掛け」希望者」の把握 ③「污水管確認調査方法」の訓練の実施 ■平時からの備え ④「つつじが丘北・防災チェックシート」⑤ 防災訓練を地元の中学生と12年間継続して毎年実施 ⑥号棟単位の『防災隣組』を継続して活動 ⑦携帯用「防災カード」の作成・活用 ⑧「防災マニュアル」改訂版(第3版)令和5年12月作成し配付 ■災害発生時の備え ⑨ 震度5強以上の際は全住戸の「安否確認」を実施 ⑩「自然災害への備え」と周知

■ 成果

近隣中学校と12年連続で合同防災訓練を開催し、中学生と住民とで全戸の安否確認訓練を実施しています。コロナ禍を経て災害時の「避難所避難」を原則「在宅避難」に切换え、「在宅避難カードセット」の各戸配付と「回収用の互近助ポスト」の各棟設置が実現。これに伴い、発災後の各住戸の在宅避難状況の把握→行政への報告→救援物資の配付の流れができました。今年度の訓練参加者が過去最大の944人になりました。

● 選定委員 Comment

つつじが丘ハイツ北住宅団地は、各棟に「防災隣組」という共助組織を設け、平時の声かけや非常時の安否確認をスムーズに行う取り組みにより2017年に防災まちづくり大賞を受賞した。今回の受賞は、その後新たに取組んだ在宅避難を原則とする防災活動などに対するものである。大規模な災害が都市部に発生した場合、自治体が設置する避難所の収容力が不足したり避難所生活が災害関連死を招く恐れもあることから、自宅や遠隔地での避難を余儀なくされる被災者も多い。その現実を踏まえ、在宅避難を前提とした防災のルールや必要な資機材を考案し、訓練により住民に徹底を図るという試みは、避難方法の多様化という今日的課題に正面から取り組む活動として高く評価できる。特に3種類の在宅避難カードの作成とその提出先の「互近助ポスト」の設置により避難状況の把握、行政への報告、支援物資の配布という一連の流れを確立する手法は、創意工夫が凝らされ、各書類の様式やネームプレートの色分けなどきめ細かなアイデアを含め他の模範となりうるものである。さらに協議会では、幹部の被災地訪問により現場の教訓を学びつつ、「防災カード」や「防災チェックシート」の配布、エレベーターへの「非常用備品BOX」の設置、訓練内容の充実など次々と新たな活動を展開している。

つつじが丘北防災協議会の取り組みは、一人の死者も出さないという強い使命感のもと「場所(避難所)での支援」から「人(避難者)への支援」という発想の転換に基づく先進的なもので、今後も現場の視点から避難者対策をリードしていくことが期待される。